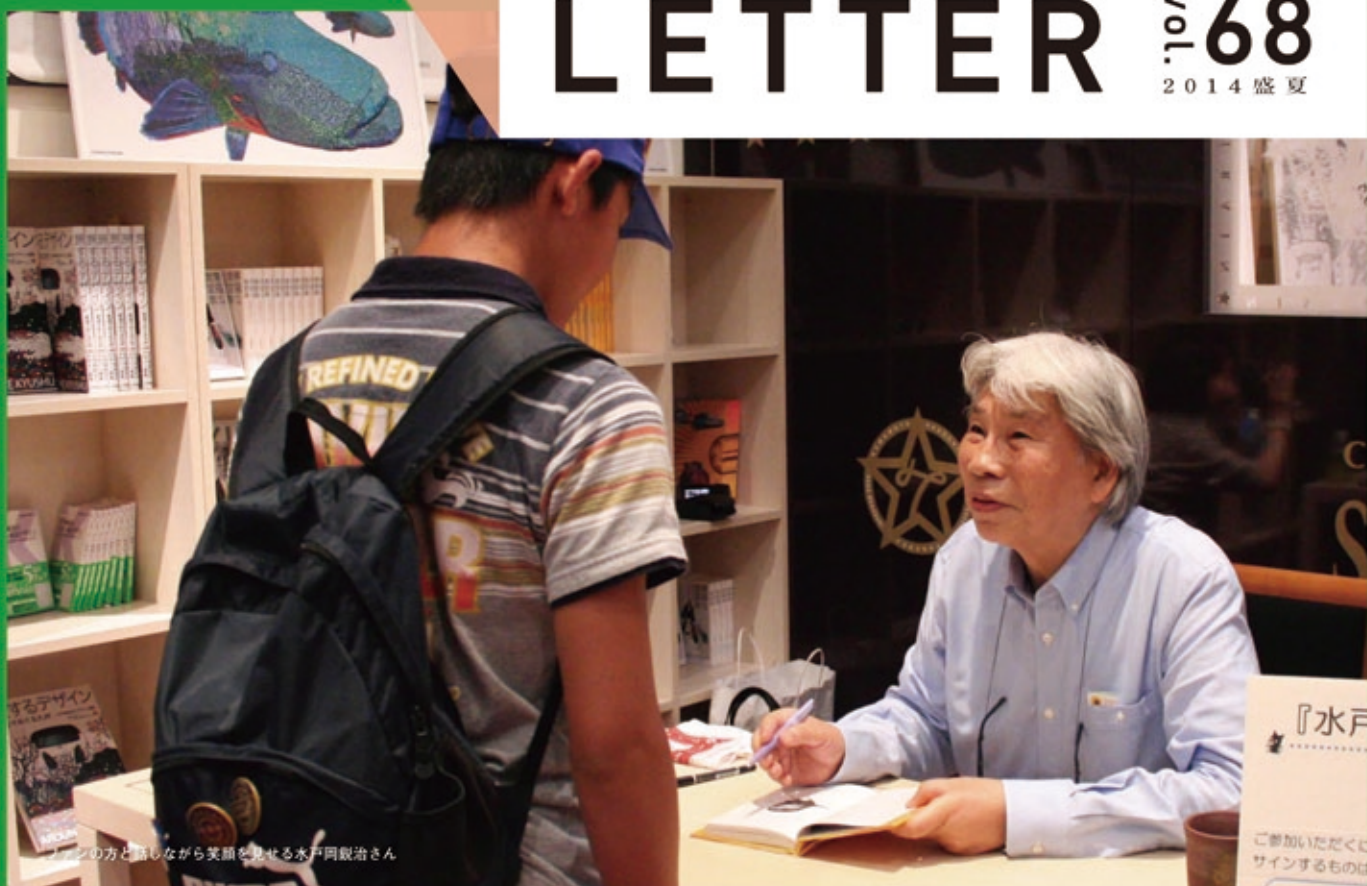


ART KISS LETTER Vol. 68

2014 盛夏



水戸岡さんの方と話しながら笑顔を見せる水戸岡鋭治さん

巻頭言

ケルトの海への寝台列車

水戸岡鋭治さんの展覧会を見ると、旅と列車に関する強い思いが伝わってきます。旅には密度の高い時間が流れ、見えたり、聞こえたり、触れるものや香りが精彩を放ち、風景と共に長く記憶に留まります。この展覧会は私に、鉄道の老舗イギリスのロンドンから、ケルトの遺跡群が残るコーンウォール地方の港町セントアイブスへの夜行列車の旅を思い起こさせました。

ロンドンのほとんどの主要駅のプラットフォームは、外の車道とつながった地上階にあり、かつてはタクシーがプラットフォームまで乗り入れることが可能でした。30年程前のことで、深夜、まるで映画や小説の一風景のようにタクシーを降りて、目の前の寝台列車に乗り込みました。列車が動くとき車掌が朝食の注文取りにやってくる、届ける時間を聞いていく。それがホテルのモーニング・コールのように目覚ましとなるのです。朝食はイングリッシュ・ティーとビスケットの簡素なものでしたが、朝日が射し、海を見ながらの車内朝食は、忘れがたいものでした。その輝く海は、かつては伝説の騎士トリスタンが深い、20世紀になってからは、そこでいくつかの傑作を生み出した小説家D・H・ローレンスや、その地に登り窯を築いた浜田庄司やバーナード・リーチ等が眺めたケルト海でありました。車室も食事も簡素ではありましたが、古代から多くの人々、とりわけ芸術家たちを魅了してきた、青い海と古代の遺跡が眠る大地の風景は絢爛としたもので、歴史とつながる旅の時間を体験できました。

あの19世紀ビクトリア朝建築のパディントン駅舎に始まるレトロでローカルな寝台列車の旅はすっかり廃止されたと思っていました。しかし調べてみると、今や車両デザインを含めて装いを新たに、「コーンウォールで朝日を浴びる」がキャッチフレーズとなり、よりファッショナブルに運行。水戸岡さんの語る本物の鉄道の旅が、ここでは変貌しながら継続しているのです。

熊本市現代美術館館長 桜井武

水戸岡鋭治からのプレゼント
まちと人を幸福にするデザイン
2014年6月28日[土] - 9月15日[月・祝]

<http://www.camk.or.jp>

詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の自作の詩の朗読会です

詩の朗読会 第126回

テーマ「もよう」

2014.5.22



今回のテーマ「もよう」では、飛び入り参加2名を含む、16名の方が詩作を発表しました。素敵な模様ハンカチ、明日の空模様。装飾としての模様を思い浮かべた作品から、様子を表わす意味の模様まで様々。草間彌生展について詩を書かれた方は、草間さんの描く水玉のように、言葉がリズムカルに並べられており印象的でした。また、「模様がこの世界になかったら」という詩を読まれた方もいました。日々の暮らしの中で、「模様」が人の心まで彩っていることに改めて気づくような会となりました。(Y・M) 【参加人数16人】

詩の朗読会 第127回

2014.6.26

テーマ「人間」



今回のテーマは「人間」。飛び入り参加3名を含む、16名の方が詩作を朗読しました。そのなかでも「星は口ほどに」という作品では、動きのある言葉を使った身体感覚の表現が印象的でした。また、「漬物石の独り言」という作品は、テーマから離れて詩作されたことでしたが、しみじみとした語り口は、擬人化された漬物石が、1人の人間の生き様を表現しているようで興味深い詩となりました。

今回は「人間」をテーマに詩が朗読され

ましたが、それぞれの詩に作者の人間性が照らし出された素敵な会となりました。(K・O) 【参加人数16人】

CAMKEESの活動

美術館ボランティアの活動紹介

CAMK「読みがたり」第57回

テーマ「自然と親しむ」

2014.5.17



若葉のみずみずしい景色の中で、花や虫や動物達がたくさん登場しました。絵本「アリからみると」は、小さなアリから見える世界を映し出しており、そこに現れる巨大な葉っぱやバッタは迫力満点。また、美術館ボランティア手作りの手袋人形を使った手遊びでは、5本の指にカエルやウサギ、ひよこ、大人気のくまモンまで登場し、それぞれの指の上で可愛く踊る様子に、自然と笑顔が広がります。新聞紙を使ったしんぶんシアターでは、一枚の新聞紙を歌に合わせて折りたたんでいくと、あっという間に船や帽子に変わり、大人も子ども

もまじまじと見入っていました。今回は、赤ちゃんの参加が多かったため、お父さんやお母さんの膝の上で一緒に歌を歌ったり体を動かしたりして、和やかに触れ合う時間となりました。(N・出) 【参加人数14人】

CAMK「読みがたり」第58回

テーマ「雨ふり」

2014.6.14



6月に入り、これまで読みがたりを開催していたキッズサロンが、アートのスクリーンで初めにニューアールして初めて読みがたりとなりました。「あたまかたひざボン」の手遊びに始まり、カエルが登場する「ピヨーン」や「かさかしてあげる」など梅雨の季節が楽しくなる絵本を紹介しました。手遊び「なつとらなつとらねーばねば」は、「ト大粒納豆、小粒納豆、ひきわり納豆、水戸納豆」という耳に残る歌詞。子どもたちも納豆がねばねば伸びる様子を、両手を近づけたたり離したりしながら楽しんでいました。(Y・M) 【参加人数33人】

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料 定員：90名

上映リスト(5/1～7/13)

- 5月5日 「欲望の法則」 1987年 スペイン映画 98分
- 5月12日 「青ひげ」 1944年 アメリカ映画 71分
- 5月19日 「バビロンの陽光」 2010年 イギリス、フランス、オランダ、パレスチナ、UAE、エジプト映画 90分
- 5月26日 「召使」 1963年 イギリス映画 111分
- 6月2日 「ランパート」 2011年 アメリカ映画 108分
- 6月9日 「ハートブレイカー」 2010年 フランス、モナコ映画 105分
- 6月16日 「緑色の髪の少年」 1948年 アメリカ映画 83分
- 6月23日 「不良少年の夢」 2006年 日本映画 114分
- 6月30日 「第三の男」 1949年 イギリス映画 100分
- 7月7日 「上海特急」 1932年 アメリカ映画 82分

ホームギャラリーからのお便り

ホームギャラリーからおすすめの一冊をご紹介します。

VOL.21 「世界のおもちゃ100選」

著者：トライブラス編
出版社：中央公論新社
発行年：2003

誰にでもきつとひとつは夢中になって遊んだ心に残るおもちゃ。がありますよね。本書では、主に北欧から輸入している0～100歳まで楽しめる世界のおもちゃが紹介されています。色鮮やかな磁石のパズルや木のぬくもりを感じる事ができる積み木、優しい音色を奏でる楽器、本格的に科学や自然を体験できるキットなど、ページをめくるたびに懐かしい気持ちになり、かつて大切にしていたおもちゃのことを思い出させてくれます。あるいは「外国にはこんな面白いものがあるのか」と、大人になった今でもちょっと欲しくなってしまうものが見つかるかもしれません。

実は、本書の一番の魅力はおもちゃの紹介ではなく、さまざま視点から「おもちゃが生まれた背景」を知ることができるコラムにあります。起源は古代エジプトまで遡るといふこと、ドイツやフランスでは日本と違い不要になっても人に譲ることなく子から孫へ何代にもわたって大事に受け継がれていくこと、近年おもちゃが優れたコミュニケーションツールとして、子どもの心的成長を促すばかりでなく、大人の心を癒しシニアの脳や身体の活性化にも役立つユニバーサルイとして「0～100歳まで」遊べると注目されてきていること……といった、単なる商品紹介カタログにとどまらないおもちゃの無限の可能性を教えてくださいたいです。

今でも購入できるものが掲載されていますので、気になるおもちゃがあったら実際に手にとって遊んでみるのはいかがでしょうか？ (Y・Mu)

まじまじと見入っていました。今回は、赤ちゃんの参加が多かったため、お父さんやお母さんの膝の上で一緒に歌を歌ったり体を動かしたりして、和やかに触れ合う時間となりました。(N・出) 【参加人数14人】

ミュージック・ウエーブ

アンダー・シュ・ヤー・ミー・ン
コンサート

2014.5.19



古ラテン語の響きを音楽として現代に甦らせ、「音楽は風土を運ぶ、音楽は自然を運ぶ」という幽遠なコンセプトで活動を続けるスウェーデンのベースの巨匠アンダー・シュ・ヤー・ミー・ンと、世代を越えて集結したス

ウェーデンのトップミュージシャンによるアンサンブルコンサートを開催しました。「LUCENI」(ラテン語で「光へ」という意味)のアルバムを中心にとした荘厳な演奏に、多くの方が酔いしれていました。「良い企画だと思います。海外のアーティストをたくさん聴きたいです」(男性)「素晴らしい演奏でした。ぜひまた聴きたいです」(女性) (アンケートより) (E・Z)

【参加人数1000人】

山内桂サルモサックスソロ
イブ+映画「ホフネン」上映

2014.6.7



大分在住のサクソ奏者 山内桂さんによる演奏と自身が制作した映画「ホフネン」の上映を行いました。渋谷や森を訪れ撮影してきた「ホフネ」の映像をまとめた「ホフネ

MATCH FLAG PROJECT 2014 BRAZIL
マッチフラッグ
制作ワークショップ

2014.5.10



「は、2013年のハンガリーとバグダードの国際映画祭に入選した作品です。澄んだ川の流れや、水から滴る雫など、約40分間流れ続ける様々な「水」のシーンは、長年溪流に親しんできた山内さんだからこそ見つけることができた光景でした。コンサートでは、即興演奏を含む2曲を披露。サルモサックス。と山内さんが名づける独自の音楽世界を観客の皆さんに楽しんでいただきました。反復するサクソスのメロディーが少しずつ変化していく様子は、映画「ホフネン」での「水」の姿のようにも思えます。美しい水の映像と演奏に心癒される会となりました。(Y・M)

【参加人数50人】

熊本での開催が3度目となるウォールアートフェスティバル2014報告会を行いました。場所はこれまでと趣向を変えて、大通アーケード内にあるギャラリー



に応援にかけつけてくれました。商店街の真ん中で布を染める集団に、道ゆく人たちも物珍しそうなお顔。そんな人たちに声をかけて、一緒にフラッグ制作を手伝ってもらいます。もちろん子どもも大歓迎。新聞のエプロンをつけて、絵筆でぬりぬりしてもらいました。

ウォールアートフェスティバル2014報告会

2014.5.30

また、「貼り」で作ったフラッグは、スタッフとまちの人々が見守る中、大通アーケード内に掲げられました。みんなで汗をかきながら丸一日かけて作り上げたフラッグが吊り上がっていくのを見ると、じんとこみあげるものがありました。(G・S)

【参加人数2000人】

術館で実施するのは、少し違う若いお客様なども多数来られ、チャイなどを楽しみながら、和やかな雰囲気です。トクが行われました。(A・S)

【参加人数40人】

熊本支援学校花壇
植え替えを行いました

2014.6.3



熊本支援学校高等部・農芸班の皆さんと一緒に花壇の植え替え作業を行いました。今年の夏の花は、マリーゴールド、ジニア(百日草)、アサガオ、アゲラタム、ベチュニアです。熊本の厳しい夏の日差しに負けない、カラフルな色がお客様の目を楽しませてくれます。(A・S)

子育てひろばオープン
特別記念講演会

2014.6.8



街なか子育てひろばのオープンを記念して講演会を開催しました。演題は、「日本初！美術館の中の子育てひろば」。当館の桜井武館長が、美術館内という環境にある子育ての持つ可能性や、アートが人々に与える力、人とのつながりの大切さを語りました。講演では、草間彌生やゴッホのエピソードを交える場面も。会場の後方には、親子でゆつたりとお話が聞けるようにマットと遊具を置いたスペースがあり、子どもたちの笑い声も聞こえる和やかな雰囲気の講演会でした。(Y・M)

【参加人数40人】



映画上映会

「草間彌生 わたし大好き」

2014.4.26&25



「草間彌生 永遠の永遠」展
関連イベントとして、映画「草間彌生 わたし大好き」(2008年、日本映画、監督：松本貴子)の上映会を行いました。多くの方にお越しいただき、会場は

「草間彌生 永遠の永遠」展

草間彌生×上通アートフェスティバル in びぶれす広場

2014.5.4-5

草間彌生展を記念して「上通アートフェスティバル」を、びぶれす広場で行いました。目玉は



両日とも満席となりました。この作品は、1年半に渡り草間彌生を追い続けたドキュメンタリー映画で、創作活動だけでなく、日常の何気ない会話も記録されています。中でもモノクロの絵画シリーズ「愛はとこしえ」の制作現場に密着した映像は貴重で、作品が生み出されていく様子に圧倒されます。「愛はとこしえ」シリーズは、「草間彌生展」で実際に展示しており、映画を観ることで展覧会をより深く楽しんでいただけたのではないかと思います。(N・H)

【参加人数合計175人】

展示された、4メートルの巨大バルーン(「ヨイちゃん」と「トントン」)。多くの道行く人が記念撮影をされていました。人気の水玉ネイルコーナーや、ぬりえ、グッズの販売、映像上映や写真パネルの展示のほか、その場でチケットが当たるじゃんけん大会も盛り上がりしました。その他、上通での「水玉強迫」展示や「水玉カフェ」、スタンブラリーや、水玉カードの限定配布など、展覧会にあわせて多くの方にご来場いただきました。(A・S)

CAMKレクチャー：カレッジ「草間彌生展について」

2014.5.10



担当学芸員による、草間彌生展のCAMKレクチャー：カレッジを行いました。「水玉」(ネット・ペインティング)「ソート・スカルプチャー」「パブリックアート」(オブセレーション)「鏡」など、草間作品に関連する15のキーワード

から、展覧会を読み解いていきました。また、2005年に当館で開催した展覧会「草間彌生 無限の大海をいく時」の会場写真を改めて見直しながら、草間さんのこれまでの作品の軌跡や、今回の「永遠の永遠」展の予兆を感じさせる作品(「愛はとこしえ」や「ハニー、コンニチハ!」)についてもお話ししました。この二つの展覧会を開催したのは、草間さんご自身の松本市と熊本市だけ。草間彌生の作品世界を立体的に理解することに役立ったとすれば嬉しい限りです。(A・S)

【参加人数40人】

入場者2万人&3万人セレモニー

2014.5.15&6.5

5月15日と6月5日に草間彌生展の、2万人、3万人の来場記念セレモニーを行いました。2万人目は、学校の代休の日に植木町からお越しになったご家族。3万人目は高校の同級生同士という女性とそのお子さんでした。それぞれ「テレビで見て」、「以前から草間さんの作品をナマで見てみたいと思っ



て」ご来場されたということで、桜井館長から記念品の贈呈の後、学芸員が会場を案内して、ささやかなサプライズを体験していただきました。(A・S)

開会式&内覧会

2014.6.27

一般公開に先立ち、「水戸岡鋭治からのプレゼント まちと人を幸福にするデザイン」展の開会式と内覧会を行いました。今回は特別に、展覧会場内の木展のため、描き下ろされた「江津湖」活用案提言ゾーンを開催場所としました。新しいアイデアが描き込まれた魅力的な江津湖の姿

「水戸岡鋭治からのプレゼント まちと人を幸福にするデザイン」展

がオープニングの祝祭的雰囲気より盛り上げます!ご挨拶で水戸岡さんは、熊本新作ゾーンに展示されている、新しい市電「COCORO」(10月より運行予定)への思い、熊本の城下町として栄えた新町・古町のまち並み景観についての提案、そして豊かな水資源に恵まれた熊本の宝である江津湖の素晴らしさについて語られました。続く内覧会では、水戸岡さんが全面的に展示を手付け、各所に様々なおもてなしの心や楽しい仕掛けが設けられた会場を、出席者の方が興味深い様子で巡る姿が印象的でした。

また会場内を走るミニトレインには、大人も大喜び!木のブールでは子どもたちもゆつたりと遊べます。子どもから大人までが大興奮の大盛況な楽しいオーブニングとなりました!(A・A)





水戸岡鋭治トーク

2014.6.28

「水戸岡鋭治からのプレマ&ファミリートour」展のプレマ&ファミリートourを行いました。やはり、電車好きなお友達が多いためか、多数の申し込みをいただきました。急遽2グループに分けてツアーをスタートすることに。今回の展示は、あちらこちらに楽

しい仕掛けがあるため、皆で寄り道を楽しんでなかなか前に進まず、のんびりペースでしたが、ミニトレンに乗ったり、記念撮影をしたり、大満足のツアーになったようです。(A・S)

最後は、水戸岡さんトークでは定番の「じゃんけん大会」が行われ、200人近い方々が水戸岡さんとのじゃんけんに参加し、勝ち残った方には賞品がふるまわれました。水戸岡さんのおもてなしが随所にあふれた楽しいトークとなりました。(A・A)

プレマ&ファミリートour

2014.7.12



「水戸岡鋭治からのプレマ&ファミリートour」展のプレマ&ファミリートourを行いました。やはり、電車好きなお友達が多いためか、多数の申し込みをいただきました。急遽2グループに分けてツアーをスタートすることに。今回の展示は、あちらこちらに楽

CAMKレクチャー・カレッジ

2014.7.13



企画担当学芸員が、水戸岡さんのこれまでの活動をご紹介した後、本展の企画意図、展示構成や、水戸岡さんが本展のために描き下ろした新作シリーズ、10月運行予定の新市電「COCORO」のプロジェクト等についてお話ししました。

イラストレーター、デザイナー、設計プランナー、プロデューサーと水戸岡さんの活動は多岐にわたりますが、それらに共通するのはプロダクトのデザインに完結するものではなく、利用者の意識、暮らし、自然や環境までも含めた総合的観点からデザインされていること。斬新な発想で地域性、公共性を大切に、モノだけでなく、コトまでもデザインする先駆者として当館は水戸岡さんに注目してきました。熊本では、九州新幹線つばめ、ななつ星in九州、あそびい！、A列車で行こう、SL人吉、おれんじ食堂など水戸岡さんがデザインした多くのものを見ることができました。展覧会鑑賞後は、水戸岡さんのデザインを実際に利用してみ、これらのデザインがまちなや、人々の気持ち、意識に対して、どのような作用と効果をもたらしているのか、デザインがもつ力や可能性について思いをめぐらせていただきたいと思います。(A・A)

【参加人数50人】

G III

ギャラリーIII(G III)は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

「こみねゆら絵本原画展 あ頃のわたしへ」

2014.6.11-9.14



熊本市出身の絵本作家こみねゆらさんの新作絵本の原画や、フランス留学時代の版画などを紹介する展覧会を開催中です。最近では人形作家としても活動の幅を広げるこみねさんを広げるこみねさん制作の人形やぬいぐるみも展示しています。7月5日に開催された関連イベント「着せかえ人形をつくろう」に登場する着せかえ人形たちも描き下ろし作品として展示。あ頃のわたしを思い出し、懐かしむ空間となっています。(E・Z)

こみねゆらアーティストトーク&サイン会

2014.6.22



こみねゆら絵本原画展関連イベント、アーティストトーク&サイン会を開催しました。フランス時代の版画の作品から説明が始まり、最新作の絵本「ミシンのうた」は服作りが止まらなくなった自身の経験が元になっていることなど、ひとつひとつ丁寧にお話しいただきました。トーク終了後のサイン会

【参加人数32人】



では、絵本の登場人物などをさりと描き加えられ、また、細やかな手作りのスタンプも登場し、感嘆の声が上がっていました。「手作りの人形がとても精密に作られていて感動しました。」「10代女性」「絵本の作り方など知らないお話が聞けてよかったです。」「40代女性」(アンケートより)(E・Z)

「着せかえ人形をつくろう」ワークショップ

2014.7.5



こみねゆら絵本原画展関連イベント、「着せかえ人形をつくろう」を開催しました。こみねさんがコレクションしている、着せかえ人形のモデルとなったアンティークのぬいぐるみやお人形も登場し、参加者から歓声が。こみねさんの描く細やかな洋服やアクセサリーにはため息がこぼれ、みなさん丁寧に彩色しハサミを入られていました。「子どもたちが夢中で作っていました。私も小さい頃を思い出して、とても楽しかったです。」「30代女性」「人生を豊かにするヒントがいっぱいあった貴重な時間でした。」「40代女性」(アンケートより)(E・Z)

【参加人数32人】

新町・古町 町屋マーク
デザインワークショップ

第二回 ガイダンス・町屋見学

2014.5.24



中央区の
新町・古町
界隈は、昔
ながらの
町屋が数
多く残り、
今でも城下町の
風情が感じられ
る地区です。そ
れらの町屋の保
存・活用に取り組んでいる「新町・古
町 町屋研究会」の主催で、2014
年の5月から8月にかけて、町屋のシ
ンボルマークデザインワークショップ
が開催されます。このワークショップ
では、10軒の町屋と新町・古町それ
ぞれのシンボルマークを、熊大、崇城
大、県立大の学生30人が3人1チーム
になって作成します。デザインにあたっ
ては、各大学の先生たちの指導を受け
るほか、デザイナーの水戸岡鋭治さん
からもコメントをいただきます。

5月24日には第一回ワークショップ
として、古町の「早川倉庫」を拠点に
説明会や町屋見学などが行われまし
た。

町屋見学では、三つのグループに分
かれて約20軒の町屋を巡りました。町
屋研究会のメンバーの案内にしたがい
ながら、建物によっては実際にその中
に入り「うなぎの寝床」とも言われ
る町屋の構造を見学させてもらいまし
た。学生さんたちももの珍しそに写真
を撮ったりメモを取ったり、興味津々
の様子でした。中には、敷地の中庭に

池があり、コイが泳いでいるというお
宅も！

2時間近い町歩きを終えて早川倉
庫に戻ってきたら、次はおのおの担当
する町屋を決めてチーム分けを行いま
す。そして崇城大の森野晶人先生から
マークデザインに関するショートレク
チャーを受けた後、各チームに分かれ
て町屋のオーナーさんたちからそれぞ
れの町屋に関するお話を伺いました。

この日に視た町屋の印象や聴かせて
もらったお話をもとに、まずは各町屋
のマークをデザインしていきます。完
成した各町屋のマークは、10月に開催
される町屋スタンプラリーの際にも使
用される予定です。(G・S)

第二回 アイデア持ち寄り・討論

2014.6.17

町屋マークデザインワークショップ
の2回目の活動です。今回は、参加者
それぞれが考えてきた各町屋のマーク
のアイデアを持ち寄り、チームごとに
議論を行いました。

前回のレクチャーでは、最初はどこに
かたくさん案を描き出すようにとい
う指導を受けましたが、果たして、皆
さんのノートにはびっしりとアイデア
が描きつけられていました！これらの
案を大きく書き直して床に並べ、みん



なで比較検討を行いました。

「この案はおもしろいけど、実際に
使うときのサイズやバランスをもう少
し意識した方がいい」「この形はもっと
遊べそう」といった先生のアドバイス
も受けながら、有力案を絞り込み、今
後発展させていく方向性を考えていき
ます。今回は数多くの案の中から、最
最終的に先生と町屋研究会のメンバーの
選考によって各チーム有力候補3案に
まで絞り込まれました。ここから、こ
の日に交わした議論やアドバイスをも
とにこれらの案をブラッシュアップし、
最終デザインを完成させます。(G・S)

第三回 完成マークのプレゼンテーション

2014.6.29

3回目のワークショップでは、それ
ぞれの班が完成させたマークを持ち寄
り、班ごとにマークについてのプレゼ
ンテーションを行いました。

プレゼンでは、まず各班が調べた個々
の町屋の紹介を行いました。建物の構
造や用途、歴史的な由来はもちろん、
オーナーさんの趣味や人柄にも言及し
てくれた班もありました。熱心な取材と
研究の跡が見られたのと同時に、学生と
オーナーさんとの距離が縮まったことも
感じられた一場面でした。

完成したマークの解説では、マーク
の各構成要素とそれらに込められた意
味や思いが発表されました。マークの
モチーフは、家業に関わるものもあれ
ば、屋号をもとにしたもの、建物の構
造的な特徴を反映したもの、オーナー
さんの趣味、あるいはそれらの組み合
わせなど、各班それぞれに趣向をこら
していました。中には、オーナーさん
が自分の屋敷は「玉手箱」のような所

Visitor's letter

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

「草間彌生 永遠の永遠の永遠」展

- ・とても細かいところまでかけてて、どくどくの色づ
かいや、め、などもあって、すごかった。
(熊本市・10代・女性)
- ・無限大という言葉が肌で感じられるものでした。
(熊本市・60代・女性)
- ・とても幸せな気分になり、ステキな休日となりました。
ありがとうございます。(熊本市・40代・女性)
- ・いつもとは全くちがう、わくわくとした感覚を味わっ
た。水玉模様が素敵すぎて、草間さんの偉大さ
にも改めておどろいた！館内の演出もすごく
手が込んでいて、大満足です！(熊本市・20代・女性)

「水戸岡鋭治からのプレゼント まちと人を幸福にするデザイン」展

- ・子供が宿題でレポート描くから…と言いついてみたら、
ゆっくりに鑑賞できてよかった。
美術大好きな息子にも刺激になったと思いまし
た。(熊本市・40代・女性)



だとおっしゃっていたのをとに、イ
メージをふくらませていったという班
もありました。

発表後には、先生と町屋研究会のメ
ンバーから講評のコメントがありまし
た。また、発表を聴きにきていたオー
ナーさん達からも、このマークのここ
が好き、ここが気に入っている、とい
う嬉しい言葉をたくさん聴くことがで
きました。皆さんのアイデアが詰まっ
たこれらのマーク、オーナーさん達に
も末永く使ってもらえると嬉しいで
すね！(G・S)

【参加人数各回30人】

〔執筆者〕* 原稿の文木にイシヤル表記
兼城昌山(S・K)書道家

蔵座江美(E・Z)熊本市現代美術館主任学芸員
富澤治子(H・T)熊本市現代美術館主任学芸員
坂本潤子(A・S)熊本市現代美術館主任学芸員
芦田彩葵(A・A)熊本市現代美術館主任学芸員
佐々木玄太郎(G・S)熊本市現代美術館学芸員
濱川倫子(N・H)熊本市現代美術館学芸員
丸吉ゆかり(Y・M)熊本市現代美術館学芸員
平原奈津美(N・H)熊本市現代美術館学芸員
大田黒翔代(K・O)熊本市現代美術館学芸員
村上由起(Y・M)熊本市現代美術館学芸員

ART KISS LETTER アートキッスレター
vol.68 盛夏号(2014年8月)【無料】

発行人・板井武
編集・佐々木玄太郎 濱川倫子
デザイン・石井克昌(MOTOSHIKI)
印刷・シモダ印刷
発行・熊本市現代美術館

860・0845
熊本市中央区上通町2・3
電話 096・278・7500
ファクス 096・359・7892
<http://www.cam.k.or.jp/>

【次号は秋号(11月発行予定)】

ART DE GYAN

アート・どぎやん。

*熊本弁でアートはどのような？という意味です

My favorite 花・おもちゃ箱

APRILS GALLERY

熊本市西区春日1丁目2-10 春日白七ビル1階1MS

TEL 096・3204・5100



マにした作品が並んでいた。「私の幼い頃の思い出は色水なんです」と語る主催の高木玲子さんの作品は、カラフルな色水に花を活け、梱包材に色水を注入して幼い頃の躍動感が表現されていて、みながる生命力が感じられた。母親と訪れていた子どもが絵を描けるスペースもあって、展示空間そのものがおもちゃ箱のようだった。(E・Z)

2014.5.24-25

白日会展

熊本県立美術館 本館

熊本市中央区二の丸2

TEL 096・3522・2111



会場は、多くのお客さんで賑わいを見せていた。会場には、絵画と彫刻が展示され、人物や風景は細部まで丁寧に描かれ、堅実で透明感のある作品が多く見られた。お客さんも、近寄ったり離れたりしながら、細部まで熱心に鑑賞していた。熊本作家では、点描で逆光の母子像を描いた熊谷有展さんの作品は、逆光で沈んだ色の人物を時折見えかくれする青によって、暗いながらも明るい影を穏やかに描き出していた。また、有田巧さんのフレスコ作品は、大きく切り取られた空の青さと、服の赤との対比に心ひかれた。(K・O)

第33回 熊日新鋭書道展

熊本県立美術館 本館

熊本市中央区二の丸2

TEL 096・3522・2111

新鋭書道展は、高校生以上で熊日書道展入選者を除く書道展として発足してきた。今年は298点の応募があ

2014.5.27-6.1

養真流いけばな展

アトススペース大室堂

熊本市中央区上通町5-6

TEL 0120・393・123

り、その中から157名の秀作以上の入賞者が展示されていた。例年と異なり、今年からは各部門別に審査がなされていた。今年のグランプリの新鋭賞は、必由館高校2年の上野ひなたさん(熊本市)だった。中国の詩を隷書体でするどく力強い線でまとめている。「漢字」の阿部英香さん、「かな」の田中友子さん、「篆刻」の荒木陵雲さん、「少字数書」の青木敬子さんの作品が目にとまった。会場は漢字、かな、近代詩、文書、篆刻、少字数作品が元氣一杯に伸びやかに並んでいた。(S・K)

2014.6.27-29



かな漆や木が花器に用いられていることや、夏山の絵画とコラボした作品など、どの作品も爽やかな風を感じさせてくれるようであった。また、清涼な青色のアジサイ、純白の白くて大きなカサブランカ、夏を感じるキンギョソウな

養真流による生け花の展覧会である。会場に入るとすぐに青々とした新緑が全体を包み込み、とても瑞々しい印象を受けた。葉の緑が映える艶やかな

第42回 硯心展

熊本県立美術館 分館

熊本市中央区千葉城町2-18

TEL 096・3511・8411



硯心展(上田祐規会長)は熊本大書道部の卒業生らでつくった書道展である。45名が自分の思いや考えを、自分なりの書体で自由に表現していた。

森山淡草さんは、「善哉」を帛書で料紙の質感を活かした変化に富む伸びやかなタッチで見せていた。成松一生さんは、清代の書家「何紹基」の臨書を力強い筆さばきで大作(120×410センチ)にしていた。三嶋天鴻さんは、筆の特質を生かし大きな雰囲気うまくとめていた。大久保倫子さんは、万葉集6首を大字かなで自分流にダイナミックな用筆で書いていた。中島豊泉さんはベトナム僧のこぼれをユニークな線で力まずに書いていた。書道部を指導した故・斉藤鶴跡さん(遺作)や米村曉雨さんらも賛助出品していた。(S・K)

2014.7.8-13

編集後記

普段はガムをかんでいるだけでも飲食禁止の注意を受ける美術館の展示会場。しかし今回の水戸岡展の会場には「つばめカフェ」という飲食物を提供するカウンターがあります。「食と記憶は深く結びついている」という水戸岡さんの食へのこだわりを反映して、特別に飲食コーナーを設けることを美術館が決断したのです。そのかわり、虫とカビを予防するために、館の職員は1時間ごとに交代で清掃を行い、ごみを回収するという作業を行うことになりました。結構な労力がかかるこの清掃ですが、これも来館者の皆さんに楽しんでもらうため!「そこにかげられた手間が感動を生む」という水戸岡さんの言葉を胸に、ぼくらは今日も掃除機を手に会場へ向かいます!。

編集長 佐々木玄太郎

今号でAKLの編集を担当するのが最後となりました。編集長のもと、表紙を考えたり、読む方にわかりやすい紙面を作るお手伝いなどをしました。携わったAKLの表紙を見るだけでも、様々なアーティストが熊本に来てくださっているのだと実感しました。イベントを通じて市民の方とアーティストが交流し、その活動を紙面でご紹介して、読まれた方がこんな活動もあるのかとアートに関心を持つ、そんな連鎖があればいいなと思っています。出会いと発見が読む方にもありますように。表紙にも注目して、今後もAKLをよろしくお願いたします!

担当 濱川倫子



デザイナー
水戸岡鋭治さん

Letters from Artists

当館活動に関わるアーティストのコーナー「レター・フロム・アーティスト」。あわせてアーティストの最新情報をお届けします。

「水戸岡鋭治からのプレゼン」 まちと人を幸福にするデザイン」展が始まりました。今回の展示は、どんなお客さんにもどのように楽しんでもらいたいですか？

水戸岡…まず、鉄道ファンの皆さんや、鉄道旅行の好きな方々はきつとたくさん来てくださると思います。それに加えて特にぼくが考えているのは、子どもたちにも旅やデザインについて楽しい時間と空間を提供したいということです。楽しい会場で、家族と歩きながら、また飲んだり食べたりしながら目に映る多くの色や形、素材といったものが彼らの記憶に残ってくればと思っています。そしてできれば、この会場で何か好きなことを見つけてくれたらうれしいですね。色や形でもいいし、電車や自然物でもいいので、



子どもたちを大事にしようというのは展覧会を企画しているときからずっと鍵になっていたことですね。

水戸岡…子どもはあつというまに大きくなってしまふので、いい時期にいいタイミングでいいものを見て触って使わせないといいけません。子どもが最初に来た展覧会で、「おもしろかった！」となるのと「つまらなかつた！」となるのでは大きく違いますよね。この展覧会をそんな一生の思い出にするためには、スタッフの方々のやさしい温かい目くばりが必要です。会場運営はたいへんだとは思いますが、自分たちの子どもだと思って大切にしたい。子どもたちにはきつとわかりたい。大人ってやさしいんだなあ、と思ってくれます。そうやって信頼関係が生まれていくんです。

展覧会の目玉の一つでもある、熊本のまちをテーマにした新作について教えてくださいませんか？

水戸岡…今回は熊本の人々、そして九州の人々のために、江津湖について新たにイラストを描き下ろしてプレゼンター



家に帰ってから思い出して、それを絵に描いてくれるような。そうして記憶に残ったものが、彼らの中でやがて大切なテーマとなってくればと思います。

それと今回の展覧会は会期が長いので、何度でも足を運んで楽しんでほしいですね。

ジョンをさせてもらいました。これは自分が絵空事で描いたもので、根拠はないんですけど、こういう風にできたらすごいよね、ということ。このようにプレゼンしても、日本ではなかなかこのまちな実現できません。でも、熊本の人気が勇気をもってこれをやったら、まちが変わる、子どもたちが変わる、大人たちも変わる、そういう気がします。

熊本ならそれができるのではないかと？

水戸岡…熊本はそういうこともできるとい気がしますね。路面電車を新しくしよう、駅をきれいにしよう、新町古町という古い町並みを活かしていこう、江津湖をなんとかしよう、という、総合的にまちづくり、ひとつづくり、ことづくり、ものづくりをしようという気持ちがあるなにあるので。

逆に、こういうチャンスを選んではしまふと次はいつ機会があるかわかりません。だから、できれば熊本駅が新しくなるまでに、全体を美しい形にできればいいですね。時間はあるので、しっかり研究し開発しデザインをしていけばできそうな気がします。

まちづくりの問題はここだけじゃなく、日本中どこにでもあるものです。熊本でいい形で展開できれば、それは他のまちにも影響するので、ぜひ思い切って先陣を切ってほしいと思います。



力強い言葉がありがとうございます。展覧会や町屋ワークショップの打ち合わせのときにも感じたのですが、具体的なもののデザインだけでなく、プロジェクトの指揮という面でも、水戸岡さんの果たしている役割は大きいように思います。常に周りに発破をかけながら、あるべき形や考え方を示してみんなを引っ張り、動かしていくという。

水戸岡…ものを作るときに人が使うのは、お金か、身体か、知恵か。この三つしかありません。そのうちの二つがあればできます。お金がないときには残りの二つを使っていけばいいんです。ただ、それには手間も体力も気力も知力も必要になるので、多くの人は嫌がってしまいがちです。でも自分は動かずにお金で他の人に何かをしてみらおうとするような発想ではだめなのです。自分で戦っていかなければいけません。デザインもまちづくりもブルーカラーの仕事、肉体労働です。そうしてみんなが手間を惜しまずに自分の身体と時間を提供するようになるには、自ずと知恵が生まれものことは見事に動き出すものなのです。

(聞き手 佐々木 インタビュー 2014年6月27日)